事業再評価調書

[事業種別] 事業名【再評価理由】	[港湾整備事業] 此花西部臨港緑地整備事業 【④事業休止中であって、令和4年度に 事業再開を予定している事業】												
担 当	大阪港湾局計画整備部施設管理課（緑地管理）（電話番号：06-6572-4050）												
1 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和48年の港湾法の一部改正を契機に、市民に親しまれる港づくりを目指し、港湾の環境や景観を整備し、保全する目的で国の補助事業を活用して臨海地域の緑地造成を実施してきた。 ・此花西部臨港緑地は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを核とする此花西部臨海地区の開発に併せて、水際線を親水性の高い潤いのある景観の創出や市内外の来訪者はもとより周辺住民の憩いの場、また、パブリックアクセスの一角として緑豊かな拠点整備を行っている。 ・さらに、大阪港港湾計画において、「防災緑地」として位置付けられており、「大阪市地域防災計画」では、大阪港港湾計画に基づき、耐震強化岸壁から輸送される緊急物資の一時保管や荷捌き等の災害応急対策活動に資する緑地として位置付けている。 												
2 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・総面積：62,000m² ・整備内容：園路、植栽、オープンスペース、照明施設 												
3 事業の概況 ※[]内は前回評価時	<table border="1"> <tr> <td>事業開始</td> <td>平成9年</td> <td rowspan="2">進捗率 (事業費ベース)</td> <td rowspan="2">84%[76%]</td> </tr> <tr> <td>事業完了予定</td> <td>事業再開後5カ年 [事業再開後5カ年]</td> </tr> <tr> <td>全体事業費</td> <td>19億円[21億円]</td> <td rowspan="2">工事進捗率 (事業規模ベース)</td> <td rowspan="2">31%[31%]</td> </tr> <tr> <td>既投資額</td> <td>16億円[16億円]</td> </tr> </table> <p>変更点：なし</p>	事業開始	平成9年	進捗率 (事業費ベース)	84%[76%]	事業完了予定	事業再開後5カ年 [事業再開後5カ年]	全体事業費	19億円[21億円]	工事進捗率 (事業規模ベース)	31%[31%]	既投資額	16億円[16億円]
事業開始	平成9年	進捗率 (事業費ベース)	84%[76%]										
事業完了予定	事業再開後5カ年 [事業再開後5カ年]												
全体事業費	19億円[21億円]	工事進捗率 (事業規模ベース)	31%[31%]										
既投資額	16億円[16億円]												
視点毎の 評価	4 事業の必要性の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・此花西部臨港緑地は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを核とする此花西部臨海地区の開発に併せて、水際線を親水性の高い潤いのある景観の創出や市内外の来訪者はもとより周辺住民の憩いの場、また、パブリックアクセスの一角として緑豊かな拠点整備を行うため、必要な事業である。 ・さらに、大阪港港湾計画において、「防災緑地」として位置付けられており、「大阪市地域防災計画」では、大阪港港湾計画に基づき、災害応急対策活動に資する緑地として位置付けているため、必要な事業である。 											
	【費用便益分析結果】 費用便益比 B/C =	(総便益B： 億円、総費用C： 億円)											
	5 事業の実現見通しの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・此花西部臨港緑地整備事業は、大阪府が進めている堤防事業の上部に園路工等を整備し、緑地施設として供用を行うこととしている。しかし、平成15年1月に堤防の下部において亀裂・陥没が発見され、協議により大阪府が補強を行うこととなったため、平成16年度より事業を休止している。 ・大阪府は、平成16～18年度で堤防補強工法を検討し、平成19～22年度に試験施工とその検証を行い、平成23年度より実施施工を行うと予定しているが、試験施工において、府の検討委員会の中で一定の評価を受けているものの、新技術及び新工法を積極的に取り入れていく必要があるとされ、実施施工を開始する目途がたっていない状況であった。 ・大阪市では、前回の再評価時に大阪府の事業計画が確定していないことから本事業を事業休止としていたが、令和3年12月に大阪府の河川構造物等審議会において「護岸における現状の安全性については、変状が収束しており、通常利用では、将来にわたって利用可能であることを確認した。」とされた。 ・この結果、本事業は事業再開可能となったが、近年の本市財政状況が厳しい中で、大阪港湾局として選択と集中を行い、引き続き「事業休止(D)」とせざるを得ないと考えている。 ・一方、此花西部臨港緑地エリア水辺賑わいづくり協議会において、「此花西部臨港緑地エリア水辺賑わいづくり構想」が策定され、民間活力を導入し本エリアの持つポテンシャルを最大限に活かし、臨海部全体の、ひいては大阪全体の賑わい創出や、舟運及び観光等のさらなる活性化を増進していくことを目的に民間事業者により緑地整備を行い、整備後、賑わい施設としてオープンカフェや船上食事施設等の整備や賑わいコンテンツとしてワークショップや各種イベントの開催等の運営を進めることとなった。 ・よって、本事業は一部「事業休止(D)」、一部「事業継続(C)」とする。 											

6	事業の優先度の視点の評価	<p>[重点化の考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度港湾局運営方針において、重点的に取り組む主な戦略として、①国際コンテナ戦略港湾の実現、②ハード整備・ソフト対策が充実した防災・減災体制の確立（防潮堤の耐震補強、橋梁の耐震化、大阪港地震・津波アクションプラン）、③施設の適切な維持管理の充実、④企業誘致と都市基盤の充実、⑤国内外からの観光客を呼び込む施策の強化の5つとしており、本事業の重点化の位置付けはない。 <p>[事業が遅れることによる影響]</p> <ul style="list-style-type: none"> 此花西部臨海地区の開発では、本緑地の背後にホテル等の誘致がすすんでいる。現在、ホテルが立地している箇所の緑地は既に供用を行っている部分と民間事業者による緑地整備を予定している部分となる。事業を休止している箇所の背後は、道路敷のため、事業が遅延することによる、現時点での影響は少ない。 また、防災緑地としては、現在は本事業で整備した箇所において、オープンスペースとしての機能が部分的に確保できており、民間事業者により緑地整備を実施すれば大部分のオープンスペースが確保できることとなる。
7	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 前回再評価時点の対応方針は、「事業休止（D）」であった。
8	対応方針（案）	<p>事業継続（C）及び事業休止（D）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
	(理由)	<ul style="list-style-type: none"> 此花西部臨港緑地は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを核とする此花西部臨海地区の港湾環境の改善や交流機会の増加に寄与するとともに、大規模地震時における防災緑地として、事業の必要性は変わっていない。 此花西部臨港緑地エリア水辺賑わいづくり協議会において、「此花西部臨港緑地エリア水辺賑わいづくり構想」が策定され、民間事業者により緑地整備を予定しているため、一部分を事業再開とする。 残る未整備部分については、近年の本市財政状況が厳しい中で、大阪港湾局として選択と集中を行い、引き続き事業休止とする。
9	今後の取組方針（案）	<ul style="list-style-type: none"> 未整備部分については、当面の間休止し、必要となる事業費確保に努める。